

勿來町會議員特輯最終號

考案新

五日十五日廿日廿五日廿日
定額 部 五
ヶ月 二 十
年 二 四 十
廣告料 行 五 十
福島縣小名浜町 電話 二
福島縣小名浜町 電話 二
福島縣小名浜町 電話 二
福島縣小名浜町 電話 二

最終選舉地の勿來町 候補者を見舞ふ

四月五日の江名町選挙を立候補十九名の一名の過剰
皮切りに七月四日の勿來町一部の入などは定員にすべ
選挙を以て本年の町村會議議案も試みたが空手でお
員總選挙は大團圓を告げる前は隠退せよ位の程度であ
選挙の間三ヶ月各地選挙場から奪う御目出度人々の
を行脚し所謂地方の一流と策謀としか思はれない、眞
云ふべき議員諸子の聲に剣に定員を策するなれば方
接し幾分鈍馬の筆者も啓蒙策はいくらでもあるであら
された感懐に到り其點う然も一名位の多へのは知
は各候補者新議員諸子に厚く緊張味があつて候補者も
禮を申上げ向は今年も御引自分勝手の氣儘を幾分でも
廻しに預り度重て此機会に殺ぐ上には運動員有権者と
御願して置く
しては寧ろ幸福であらう

各候補者の 片鱗

現に勿來製氷の専務取締役
進しつゝある、一面在郷軍
八分會長の職にあり名聲
揚げられて區長たる數期現
に納税組合長の善實なる反
面を見せ常に名利を欲せず
に精進すること共に社界事業
の一端を担ひ、要約すれば
所謂下層階級の味方とな
り相話相手として働いて見

藥的方面に於ては協業座の候補者
社長として盡力も惜まない
兎に角地方に於ては隆々た
る聲明を馳せ石城の天地に
は隠れなき存在として將來
に大なる期待を掛けられつ
ゝある第一者である。

赤津修一氏

銘酒部々逸の醸造元とし
て名實共に社界的に聲名を
馳せつゝある赤津氏は勿來
町の重鎮として將來に大なる
期待を掛けられつゝある
現に所得税調査委員の榮
も現に町議も二回目の立
候補である其他公私社界
に飛躍しつゝある点は一
の關係する町長位は必
らず御身の廻る人材とか
津氏の爲めに自重自愛を
祈る。

赤津壽平氏

赤津氏は温厚堅實なる紳
商であつて人格の高尙なる點
第一入者の稱がある
揚げられて區長たる數期現
に納税組合長の善實なる反
面を見せ常に名利を欲せず
に精進すること共に社界事業
の一端を担ひ、要約すれば
所謂下層階級の味方とな
り相話相手として働いて見

平山昇氏

平山氏は少壯新進氣鋭の
進材にして職業的に熱心と
共に社会的にも奉仕事業に
も滿腔の努力をほらし名聲
噴々たるものがある現に勿
來町青年團の副團長の榮譽
を獲且つ消防組第二部長と
して奮勵されて居る年齢
感に達せずと言ひ共氏の個
性せる成人振りは將來大
なる希望を掛けられつゝある
候補者

園部里治氏

園部氏は元町議である今回
で四回の立候補も毎度
落一致の推薦で人望隆々
るものがあつて最後の五分
間に於て常に奮み敗北を
見せられたと言ふて居る然
り園部氏は物質には餘り恵
まれない氣骨強々たるもの
がある故に浮薄なる現代に
は餘り立派過ぎる他人の氣
風には合わないかも知れぬ
嫌取り日尙足すの今日世
は餘り立派過ぎる他人の氣
風には合わないかも知れぬ
嫌取り日尙足すの今日世

大平睦四郎氏

ひあの快活なる社交振りと
も滿腔の努力をほらし名聲
噴々たるものがある現に勿
來町大平氏の名は餘り全山
の人氣を一身に集め全
期町議六回目、前縣會議員
參事會員民政黨福島支部幹
部として働きたる肩書の所
有者だからである、永年酒
醸造を業とし氏の當は德行
併行して信望益々嵩り加
ふるに氏の福徳的爆発の聲
は四隣に響く老て益々旺々
り之感がある。

荒川又助氏

荒川氏は町議の三期目の
信望の高き人である。
信望の高き人である。
信望の高き人である。
信望の高き人である。

鳴澤留太郎氏

鳴澤氏は町議の三期目の
信望の高き人である。
信望の高き人である。
信望の高き人である。
信望の高き人である。

中野信藏氏

中野氏は町議の三期目の
信望の高き人である。
信望の高き人である。
信望の高き人である。
信望の高き人である。

下山田甚次兵衛氏

下山田氏は町議の三期目の
信望の高き人である。
信望の高き人である。
信望の高き人である。
信望の高き人である。

（一面より）
こと数回家屋税調査委員
等の職にあり尚ほ特筆すべ
きは消防部長たる二十年の
永ひ間衛生部長たる十八年
間大字惣代二十六年間如何
に氏が部落の爲め熱心に盡
力されたかか視知ることが
出来る。

物して推し本人も大字に体
を捧ぐる意志。て働くと言
ふ以上實にしくりした候望
を述べたものがある。

候補者
兒玉富八氏
精米業 五十五年(再)
事務長 小野常藏氏
兒玉氏は關田方部の推薦
にて立候補を宣した二期の
ふ勿來町の元老格である
部落の大小問題や名譽職等
に總てが免れた人で信望
隆々たる人である。

候補者
渡邊梅吉郎氏
事務長 渡邊常太郎氏
渡邊氏は九面の重鎮で今
回で町議なること四回と云
ふ勿來町の元老格である
部落の大小問題や名譽職等
に總てが免れた人で信望
隆々たる人である。

候補者
北郷廣作氏
自動車業 四十二年(新)
事務長 下山田倉吉氏
北郷氏は活動家として令
名がある勿來自動車株式會
社社長として交通改善の恩
人である其他土木委員たり
消防幹部として四時東奔西
走席温るの暇なき程である
今回が町議としての初陣な
れど氏の將來は洋々たるも
のがあるべし

候補者
久氏
醸造家 四十二年(再)
事務長 關井喜代松氏
關田方部の牛耳を取る際
實人である現に實組組長の
走席温るの暇なき程である
今回が町議としての初陣な
れど氏の將來は洋々たるも
のがあるべし

候補者
大平藤太氏
農 四十七年(新)
事務長 齋藤信義氏
大平氏は消防幹部青年團
長等を経て大高方面切つて
の評判男にして爲農家とし
ても改良進歩に精進されつ
ゝある人である今回も大字
部落の爲めに差上げた氣分
が切なる態度に依り身体を
部落の爲めに差上げた氣分
が切なる態度に依り身体を
部落の爲めに差上げた氣分
が切なる態度に依り身体を

候補者
兒玉武助氏
農 五十一年(新)
事務長 安島米造氏
兒玉氏は現區長である大
小共に方部の爲めには一通
の評判男にして爲農家とし
ても改良進歩に精進されつ
ゝある人である今回も大字
部落の爲めに差上げた氣分
が切なる態度に依り身体を
部落の爲めに差上げた氣分
が切なる態度に依り身体を

候補者
上田科外醫院
外科専門
レントゲン科
平町南町
電話二二九番

眼科専門
植田町

鈴木眼科醫院
小名濱分院
入院應需

小名濱名松新
小名濱分院
電話五十七番

良品廉賣に勝る商略なし
警城セメント代理店
金物問屋
釜屋商店
電話九番 九九番
電話九番 九九番

内科・外科
花柳病科。小兒科
中村醫院
レントゲン科開設
病室の設備あり
小名濱町
電話十八番

宮津醫院
内科外科耳鼻咽喉科
小名濱町西町
電話百四十二番

佐瀨醫院
内科 小兒科 花柳病科
小名濱町中島
電話百三拾五番

平川醫院
内科 外科
小兒科 花柳病科
江名町 電話二六番

久保田醫院
内科 産婦人科
小兒科 花柳病科
小名濱町 電話二二番

丸伊酒店
正直に勝る商略なし
買ふ人の心になつて賣る店
酒銘「肅正」
平町新川町通り
電話二二番

開店廣告
内臓外科 整形外科
腦外科 皮膚科
婦人外科 性病科
一般外科 性病科

諸橋外科醫院
醫學博士 諸橋鐵彌
入院室手術室完備
平町新川町廿七
電話四六四番

警城水産工業株式會社
課目 冷凍部。鑛油部。
魚市場。製造部。
社長 小野野 晋一
支店長 尾伊 一郎
小名濱町
電話六六番 百十番

七十七銀行
資本金九百萬圓
福島縣支店
小名濱町支店
株式會社
小名濱出張所 電話五番

春の家
夏の夜の涼味満點
御待合
平町田町
電話三一〇番

病室の設備入院應需